



泊小学校だより ～潮風の中でたくましく～

令和2年1月31日

第20号 校長 山本 洋介

湯梨浜町内の学校では、依然としてインフルエンザがはやっていて、他校での新たな学級閉鎖もあり、1月30日開催予定だった3小学校6年生合同学習会も中止になっています。ご家庭の皆様の体調の方はいかがでしょうか。

本校では、2週間前に1クラス学級閉鎖を行いました。先週よりインフルエンザ罹患者はいなくなり、子どもたちは元気に活動しているところです。ご家庭でも引き続き、手洗い・うがい等のご協力をお願いします。

【言葉の大切さ】

本校では、言葉の課題として子ども同士になった時や学校外でのやりとりが挙がってきますが、人の言葉には無限の可能性と大きな力があると思います。言葉の使い方によっては本当に貴重なものにも、その反対のものにもなってしまいます。言葉は、私たち人間だけが持っている不思議で、大切なものだといえます。

テレビや漫画等より間違った言葉遣いが子どもたちの中に入り込み、ともすると、その一言の重みを気にも止めず、使ってしまった場面があるのではないのでしょうか。子どもたちのそんな姿を見ることやほり心が痛みます。

言葉は、「自分の気持ちと相手への思いやりを伝える大切なもの」であること、「乱暴に遣えば相手の心も自分の心も荒れ、丁寧に遣えば相手の心も自分の心も優しく温かくなる」ことを学校・家庭・地域が教えていかなければならないと思います。

ご家庭でのご協力もどうぞよろしくお願いします。

「その一言」

その一言で、励まされ その一言で、夢を持ち その一言で、腹が立ち
その一言で、がっかりし その一言で、泣かされる
ほんのわずかな一言が 不思議に大きな力を持つ
ほんのちょっとの一言で

「高橋系吾著」

<早春図書イベントについて>

「子どもたちの読書意欲を喚起する」「楽しんで図書館に行く機会を増やす」ことを目的にして、2月3日～25日の間で次のようなイベントが行われます。

- ・早春図書おみくじ

＊運勢、おすすめ本の書いてあるおみくじを期間中に一人一回引く。

- ・「あつめてはって 本の虫」(縦割り班で力を合わせて)

＊委員会で写真を120ピースに切ってパズルを作り、借りた本を返すときに返却した冊数分パズルピースを受け取り、自分の班のところに張っていく。

(全校には、競争ではなく、図書館や読書に興味を持ってもらう目的であることを説明しておく。)

読書の効果・効用については、これまでに数限りなく様々なことが挙げられ、すでにご存じのことも多いと思いますが、次のようなことも挙げられていました。

読書は、脳の器官を動かす効率のよい脳トレであり、学習方法だと言われます。海外の研究では本の中の景色や音、においや味を想像しただけで、脳のそれぞれをつかさどる領域が活性化し、新しい回路が生まれたとのこと。 (本を読むことで、本当に体験したかのように感じるということです。) また、わずか6分間の読書によりストレスの3分の2以上が軽減されることもわかっているそうです。(これは、音楽鑑賞や散歩によるストレス軽減をはるかにしのぐものだそうです。) さらに、読んだことを言葉にして表現することでコミュニケーションの力がぐっとアップするということです。

子どもたちは、図書イベントを楽しみにしていますが、この機会に、さらに読書への気持ちを高めていくことができればと思っています。